助産師による
育児相談の受け付け

地域社会との共生

グループ基本方針

セブン&アイHLDGS.は、地域、社会との連携と協調を図り、良好な関係を維持することにより、地域、社会の一員としての責任を果たすとともに、豊かな生活環境作りを支援し、社会性、公共性を勘案し、適切な寄付など社会支援を行います。

行動基準

1. 地域、社会の文化、習慣などを尊重して事業活動を行う。
2. 地域、社会活動への参加協力を積極的に行うとともに、セブン&アイHLDGS.の経営方針および事業活動に対する地域、社会の理解を得られるように努力する。
3. 適切な社会貢献、寄付などによる社会的責任を果たすことを通じ、企業の社会的価値を向上させる。
4. 店舗出店に当たっては、周辺の生活環境に配慮し、交通、駐車、騒音、臭気などの問題に積極的に取り組み、地域住民との良好な関係を構築する。
5. ノーマライゼーションへの取り組みを積極的に推進するとともに、高齢化社会に備えた介護サービスへの配慮など各地域に密着したキメ細かなサービスを実施する。

セブン&アイHLDGS.企業行動指針
(1993年制定・2007年改定)より
全文はhttp://www.7andi.com/csr/guidelines.html

共通の取り組み

自治体との連携を深め、地域の活性化に貢献

セブン-イレブン、イトーヨーカドー、ヨークベニマルは、都道府県や各市などとの「地域活性化包括連携協定」締結を進めています(2010年7月末現在、35自治体)。地域特有の食材を取り入れた限定商品の開発やフェア開催のほか、観光振興、災害時の対応などにおいて相互の連携を強化しています。

主要事業会社の主な取り組み一覧

	コンビニエンスストア事業	スーパーストア事業		百貨店事業	フードサービス事業	金融関連事業
	セブン-イレブン	イトーヨーカドー	ヨークベニマル	そごう・西武	セブン&アイ・フードシステムズ	セブン銀行
育児・高齢者支援など	●就労体験学習の受け入れ ▶P.48 ・お客様のご自宅を訪問してご注文をうかがう「ご用聞き」の実施	●赤ちゃん休憩室の設置 ▶P.11 ●マタニティ・育児相談室の運営 ▶P.11 ・高齢者介護施設への訪問販売 ・高齢者向け商品の販売・健康相談の実施 ・就労体験学習の受け入れ	●食育の推進 ▶P.49 ・就労体験学習の受け入れ ・次世代育成(小学生対象スポーツ大会の主催、高校生の海外派遣) ・献血運動	●盲導犬育成事業を支援(店頭募金・企業寄付) ▶P.50 ●全店盲導犬ふれあいキャンペーン開催による啓発活動(年2回) ▶P.50 ・ベビー休憩室の設置 ・母子保健相談・育児相談の開催 ・ハートフルアドバイザーによるお買物サポート	●就労体験学習の受け入れ ▶P.52 ・食育の推進 ・「ノーマライゼーション研修」の実施 ・「ノーマライゼーションガイドブック」を作成・活用 ・地域自治体の子育て支援への協力	●読み聞かせフリー絵本「森の戦士 ボノロン」への協賛と普及支援 ▶P.53 ●店頭での読み聞かせ会の実施 ▶P.53 ・高齢者にも使いやすいATM設計
地域活性化への協力	■地産地消商品の開発・販売 ▶P.45 自治体との包括連携協定締結の促進 ▶P.45	●街づくり・再開発への参画 ▶P.49 ・地産品の販売促進への協力 ・地域福祉団体や地域イベントへの店舗スペース提供	・店舗での交流イベントの開催 	■環境保全活動、環境美化への協力 ▶P.50 ・地産品の商品開発・販売 ・地域活動への店舗スペースの提供 ・地産品の販売促進 ・お祭りなど地域イベントへの参加 ・就労体験学習・店舗見学会の受け入れ	・地産地消のメニュー提供(給食事業)	・ATM画面での選挙広告の掲出
災害時の支援	・災害時帰宅困難者への支援 ・災害発生時の安全確保に関する行動指針の配布 災害時の支援協定の締結 ▶P.43・45 被災地支援店頭募金(社内募金)の実施			・災害時の支援協定の締結(一部店舗)	・災害時帰宅困難者への支援(該当エリア:19都府県市) 	・セブン銀行口座を活用したお客様向け災害時救援募金(社内募金)の実施
地域防犯対策	●セーフティステーション活動の推進 ▶P.48 お酒・たばこの販売時年齢確認の実施		・「こども110番の店」としての活動 	・お酒の販売時年齢確認の実施 ・地域行政・自治体の防犯活動への協力	・セーフティステーション活動への協力 ・お酒・たばこの販売時年齢確認の実施	・警察からの捜査依頼への協力

●本レポート中に独立した項目で記載　■本レポート本文中で言及　— 取り組み未実施

社外の方からのご意見

岸本幸子様
特定非営利活動法人
パブリックリソースセンター
事務局長

方針を明確にし、経営戦略と結びついた活動を期待します

現在、CSRは経営との一体化が問われています。本レポートでは、セブン&アイ*HLDGS.*が現在取り組んでいる多彩な内容が詳細に報告されています。今後は加えて経営戦略と結びついたCSR活動の目標と、それに対して現在がどの段階にあるのかを明記してくださることを期待しています。

例えば少子高齢化や女性の社会進出などの社会の問題・変化をあげ、それに対して、セブン-イレブンでのチルド弁当販売や住民票交付などの事業を通じた取り組みを記載していることはわかりやすく、評価できます。今後セブン&アイ*HLDGS.*がどのような持続可能な社会をつくっていこうとしているのか、わくわくするような将来ビジョンと具体的なロードマップがあるとレポート全体はさらに読み応えのあるものになるのではないでしょうか。

地域社会との共生に関する考え方や姿勢についても、事業特性との関連を明確にして、なぜその事業会社がこの取り組みを行うのかという理由がはっきりしていることが望ましいと思われます。同時に支援先の団体やお客様などから成果や影響についてご意見をいただくことも重要です。企業の目線と地域社会の目線の両方をすり合わせて、独自の取り組みを開発していくことを期待しています。

また全体にもう少し物語性のある書き方をしても良いように思います。一つの取り組みには、関わる方の思い、物語があるはずです。それが伝わる書き方にしてみてはいかがでしょうか。

コンビニエンスストア事業

小売店としての責任

セブン-イレブン・ジャパン

未成年者に対する酒類・たばこの販売防止を徹底しています

セブン-イレブンでは、地域社会の一員として「安全・安心なまちづくり」や「青少年環境の健全化」をテーマとしたセーフティステーション活動[※1]に積極的に取り組んでいます。毎年2回全国で開催している商品展示会では、加盟店の防犯意識を向上するため「防犯原則」[※2]や未成年者の飲酒・喫煙防止策の情報発信に努めています。

未成年者の飲酒・喫煙を未然に防止するために、加盟店ではさまざまな取り組みを行っています。酒類売場では法令で定められた表示物を掲示することはもちろん、レジカウンター付近に「年齢確認」のポスターを掲示し、販売業務を行う従業員は「証明書で年齢確認」と書かれたPOPをお客様の目に付きやすい胸元に付けています。さらに、精算時に年齢確認が必要な商品をスキャンすると、お客様側のレジ画面に「年齢確認対象商品」と表示され、従業員側には「年齢確認」をうながす音声案内が流れます。

こうした活動を通じて、従業員がお客様の年齢を確認し忘れないよう、またお客様には年齢確認や身分証明書の提示に理解、協力をいただけるよう、取り組みを進めています。

「年齢確認」のポスター

従業員が付ける「証明書で年齢確認」と書かれたPOP

子どもの就労体験や見学の受け入れ

セブン-イレブン・ジャパン

身近な小売店として、地域の学校に協力しています

セブン-イレブンでは、地域の小・中学校から就労体験や見学などの要請をいただくことがあります。生徒を受け入れる場合は営業に支障が出ないよう日時を調整し、可能な限り学校からのご要望に沿うように努めています。[※3]また、本部では受け入れを円滑に行うための資料などを用意し、加盟店に提供することもあります。

受け入れ時、生徒の皆様にはユニフォームや名札を着用していただき、あいさつの練習や商品の袋詰め、掃除、品出しなどセブン-イレブンの業務を体験していただきます。地域の青少年にとっても身近な小売店であるため、今後も積極的に生徒の就労体験や見学などの受け入れを行っていきます。

※1　セーフティステーション活動項目

「安全・安心なまちづくり」
- 強盗や万引きの抑止、振り込め詐欺などの未然防止
- 緊急事態（災害・事故・急病人など）への対応
- 女性・子ども・高齢者の保護・通報
- 大規模災害時における協力など

「青少年環境の健全化」
- 未成年者に対する酒類・たばこの販売防止
- 18歳未満者に対する成人向け雑誌の販売・閲覧防止
- 青少年のたまり場化防止など

※2　防犯原則
- 大きな声で相手の目を見て挨拶
- 素早く、カウンター内で接客準備
- 非常用通報ボタンの常時携帯と活用の徹底
- 防犯カメラの作動を確認
- 防犯用カラーボールの設置と活用
- 従業員用防御盾の設置と活用

※3　2009年度の就労体験や見学実施店舗数

5,511店

スーパーストア事業

出店地域への配慮

イトーヨーカドー

地域との対話を重視し、地域社会に貢献する店舗を目指しています

イトーヨーカドーでは、新規出店のさいには店長などの役職者が出店地域に移り住み、各種市場調査を行い、地域のニーズの把握に努めています。また、開店後も地域の一員として、地域行事や青少年育成・非行防止などの取り組みに参加し、地域社会への協力を継続しています。

大規模小売店舗立地法に基づく説明会では、地域の方々のご意見をうかがい、改善に努めています。2010年6月にオープンしたアリオ北砂では、建物所有者と説明会を開催し、周辺道路の交通渋滞や、安全対策などを懸念する声が多かったことから、地元行政や警察の指導を仰ぎ、交通警備誘導計画の策定を行いました。[※4]

アリオ北砂の周辺では、地域住民が憩う公園の整備や新築マンションの建設が進み、今後診療所を併設した介護老人保健施設の移転計画もあり、街づくりが進んでいる地域です。アリオ北砂では、商業施設としての充実に加えてスポーツクラブなどの健康関連施設も入居しており、新しい地域の核施設となっています。

アリオ北砂

食育の推進

ヨークベニマル

地域貢献、お客様への感謝の気持ちから、「食育活動」に取り組んでいます

ヨークベニマルは、お客様に健康的で豊かな食生活を送っていただくため、また、次代を担う子どもたちに、食に興味を持ち、成長していただきたいという想いから、「食育活動」を実施しています。例えば、お子様を対象としたスーパーマーケットツアーでは、店舗を教室に見立て、商品の栄養やバランスの良い食事の大切さについて学んだり、課題に沿って食品を選ぶ買物体験や調理実習を行っています。[※5]

さらに2009年度は、農作業の大変さや楽しさ、自然の恵みを五感で体験し、野菜や果物への理解・興味を深めるためのイベント「キッズファーム」を開催しました。「キッズファーム」では、小学生のお子様がいらっしゃるご家族（2009年度は28組）に、福島県須賀川市の園地で、種まきから収穫まで一連の農作業を体験していただきました（全7回）。参加者からは、「採れたてのおいしさを知った」「農業の楽しさ、大変さを感じた」など好評をいただいており、今後も活動を継続していく計画です。

キッズファームの様子

※4　アリオ北砂の交通対策

建物所有者と連携して、開発区域内に、南北および東西に道路を新設し、幹線道路〈明治通り〉の混雑緩和を図りました。また、南北2つの街区に分かれているショッピングセンターを上空ブリッジでつなぎ、駐車場間の車移動を可能にしています。駐車場の出口の配置も工夫し、お帰りのさいの方面によって出口を選択できるようにしました。
開店時には、交通警備誘導計画に基づき、混雑の分散化を図っています。また、隣接地に臨時駐輪場を確保するなど、地域の交通特性を考慮した交通対策を実施しています。

※5

ヨークベニマルは、ファイブ・ア・デイ協会の会員となっています。ファイブ・ア・デイ協会は、2002年に設立された一般社団法人で、「1日5皿分（350g）以上の野菜と200g以上の果物を取ること」をスローガンに国民の健康増進を推進しています。
http://www.5aday.net/

百貨店事業

「みんなのやさしさ、つなぎたい。」をテーマに社会貢献活動

株式会社 そごう・西武

盲導犬育成事業を支援しています

そごう・西武は、社会貢献の一環として盲導犬育成事業への支援活動を推進しています。

店頭での募金活動に加え、会社と労働組合が設立した基金に、社員による募金制度「ワン!コイン倶楽部」※1を組み入れ、寄付を行っています。※2

また、盲導犬育成事業の啓発活動として、視覚障がい者および盲導犬に対する理解促進を図るために、盲導犬育成団体の協力を得て春と秋の年2回「ふれあいキャンペーン」を全店で開催しています。盲導犬のデモンストレーションや体験歩行を通じて、お客様に盲導犬をより身近に感じていただくとともに、盲導犬育成事業への関心を高めていただく機会を設けています。

盲導犬への理解を深める「ふれあいキャンペーン」

地域の特性をふまえた社会貢献を目指しています

百貨店は地域に根ざし、地域の発展とともに歩んでいく業態であることから、地域社会への貢献が重要であると考えています。そごう・西武の各店舗では地場物産品の紹介、地域産の素材を使った商品の開発、地域産業の振興や教育・文化活動のサポートに積極的に取り組んでいます。

そごう 神戸店

神戸市と連携して「段ボールコンポストのつくり方セミナー」を開催。店舗屋上のグリーントンネルづくりでも活用

西武 沼津店

地域の子どもたちに「お仕事体験」をしていただいた後、一緒に打ち水や花壇への水やりを実施

※1　ワン!コイン倶楽部

社員が任意に選択した募金口数を毎月の給与から天引きするシステムです。社員一人ひとりがこの活動を理解し、全社一体となって盲導犬育成事業を支援しています。

※2　2009年度の寄付金額

店頭募金総額：3,325万円
そごう・西武基金とワン!コイン倶楽部の総額：2,000万円

お客様からお預かりした下取り商品（一部）は途上国に贈られます

そごう・西武では、2009年5月から「下取りキャンペーン」※3を実施、お客様からお預かりした下取り商品の一部を国際協力NGOジョイセフ※4を通じてザンビア共和国に寄贈しています。

2009年5月末、駐日ザンビア大使がご来社され、感謝状をいただきました。また、現地では裸足の子どもが多く、足の怪我が原因で破傷風や寄生虫病にかかる子どもが多いことをうかがい、6月、8月に子ども靴の下取りを実施しました。その後も継続的に子ども靴を寄贈するため、10月から6店舗で「こども靴下取りサービスコーナー」を常設しました。2010年3月からは23店舗に拡大しています。お客様からは「捨てるには忍びないが誰かの役に立つなら」「国際貢献をしたかったがやり方がわからなかった」「これからもずっとこの企画を続けてほしい」など、店頭で商品をお預かりするさいに多くのお言葉を頂戴しました。

そごう・西武では、この取り組みを、お客様の善意をお届けする活動として推進していきます。

こども靴下取り常設サービスコーナー（池袋本店）

子ども靴、その他の寄贈品をザンビア各地で配布

駐日ザンビア大使と山下社長

寄贈された靴をはく、ザンビアの子どもたち

※3　下取りキャンペーン

2009年度の実施回数：7回
お客様人数：約224,000人
回収点数　：約647,000点
寄贈点数　：約176,000点

※4　国際協力NGOジョイセフ

途上国の妊産婦と女性の健康と命を守るために国連や国際機関と連携して支援活動を行っている団体。
ジョイセフのWebサイトには、そごう・西武の活動としてザンビアの子どもたちへ靴を寄贈する様子が掲載されています。
http://www.joicfp.or.jp/jp

VOICE

子ども靴は、裸足で遊ぶザンビアの子どもたちに配るだけではなく、感染症の予防やお母さんたちが産前健診活動に参加するよう促す健康教育のツールとしても有効に活用しています。お客様からの贈り物は、一人ひとりの子どもたちに夢や笑顔を与えるばかりではなく、健康に関する知識も提供してくれる貴重な宝物です。そごう・西武とお客様のご善意に、心より感謝いたします。

簡野 芳樹様
国際協力NGOジョイセフ
支援事業グループ
プログラム・マネージャー

フードサービス事業

地域の教育支援

セブン&アイ Food Systems

店舗を活かし、生徒の就労体験を受け入れています

※1　就労体験受け入れ状況（2009年度）

セブン&アイ・フードシステムズでは、地域の小・中・高等学校などからのキャリア教育への協力要請に応え、店舗での就労体験の受け入れを行っています。2009年度は、全国の店舗で延べ122回実施し、333人の生徒を受け入れました。※1

就労体験では、学校からのご要望も受け入れながら、各店舗ごとにカリキュラムを作成しています。店長をはじめとして店舗の従業員が指導にあたり、会社概要や仕事の仕組みについての講義の中で、料理の品質・サービス・おいしさへのこだわりを伝えています。簡単な接客や生徒試食用のデザートづくりなどの体験のほか、店舗の清掃、洗い場業務などで衛生について学ぶ時間などを設けています。「働く」ことを実体験した生徒たちからは、「仕事の厳しさ、楽しさ、やりがいを肌で感じた。将来に役立てたい」などの声をいただいており、今後も積極的に受け入れを実施していきます。

就労体験の様子

商品を通じた社会貢献活動

セブン&アイ Food Systems

ヘルシーメニューの販売を通じて、世界の食料問題解決に貢献しています

セブン&アイ・フードシステムズの給食事業の一部店舗では、2008年5月から世界の食料問題の解決に取り組むNPO法人TABLE FOR TWO（以下TFT）の活動に参加してきました。この活動にレストラン・デニーズも賛同し、デニーズ誕生35周年記念事業の一環として、TFT主催の「100万人ごはん―自分と世界を変える」キャンペーン※2に参加しました。

2009年10月8日から1カ月間、TFTのガイドラインを満たすヘルシーメニューを設定し、お客様から1食注文をいただくごとに、アフリカの給食1食分に当たる20円を寄付しました。同時に、店頭募金も行い、総額5,073,260円（店頭募金311,040円を含む）をTFTを介して国連『ミレニアムビレッジ』プロジェクトの窓口である米国NPOミレニアム・プロミスに送金しました。今後もお客様とともに、商品を通じて社会の問題を解決する活動に取り組んでいきます。

※2　「100万人ごはん―自分と世界を変える」キャンペーン

先進国の飽食と途上国の飢餓問題解決を目指す取り組みで、ヘルシーメニューを注文すると温かな給食1食分（20円）がアフリカに贈られるというTFTのプログラムです。2009年は国連の定めた世界食料デーである10月16日から1カ月間展開されました。

ディナータイムのTFT対象メニュー（一例）

お客様への
TFTご紹介資料

金融関連事業

読み聞かせ絵本「森の戦士 ボノロン」への協賛

セブン銀行

次世代を担う子どもたちの健全育成を応援しています

セブン銀行では、「読み聞かせによる親子のコミュニケーションを応援したい」という想いから、隔月で毎号100万部発行している読み聞かせ絵本「森の戦士 ボノロン」に協賛し、本店・出張所のほか、セブン-イレブンやデニーズなどの協力を得て絵本の配布を行っています。

絵本の誌面上では、読者が気軽に参加できる企画を催すなど、読者とのコミュニケーションにも取り組んでいます。2009年夏に実施した「第4回ボノロン絵画コンクール」では、たくさんの子どもたちから応募いただき、同年10月号の誌面で受賞作品を発表しました。

また、2010年3月には社員やスタッフ自らが読み聞かせを行う、「第2回ボノロンおはなし会」をセブン銀行出張所全6店舗で開催し、地域の子どもたちへ大型絵本の読み聞かせや、音楽に合わせた手遊びを行いました。

セブン銀行は今後も親子のコミュニケーション促進のために取り組みを支援していきます。

おはなし会では、「子どもたちが真剣に話を聞いてくれたのがうれしかった」と参加した社員が述べています。社員自身も絵本協賛の意義を再確認する良い機会になりました。

環境美化活動

セブン&アイグループ

グループ事業会社が清掃活動に取り組んでいます

1999年7月にセブン-イレブンが地域の環境美化活動の一環として開始した清掃活動を、2006年6月からセブン&アイHLDGS.のグループの活動として実施しています。毎年6月と10月（または11月）に、セブン-イレブン加盟店のオーナー様や従業員、さらにグループの事業会社従業員が、店舗や事業所周辺の清掃※3を実施しています。

2008年度からは、年に一度、各事業会社の本部従業員が中心となり、ごみの不法投棄が問題となっている富士山の清掃活動※4をボランティアで実施しています。NPO法人富士山クラブのご指導のもと、さまざまな事業会社の従業員が一緒に清掃活動を行っています。また2010年度は従業員の家族も参加。参加者からは「子どもと一緒に取り組んだことで、子どもにとっても環境問題を考える良い機会になった」という声がありました。

今後も、グループ全体で清掃活動に取り組んでいきます。

2009年11月、静岡県沼津駅周辺の清掃活動に参加したメンバー

※3　清掃活動でのごみ回収実績

2009年6月　63.4トン
2009年11月　57.1トン

※4　富士山清掃でのごみ回収実績

2008年度　390kg
2009年度　230kg

topics　地域社会との共生

セブン-イレブンみどりの基金
一般財団法人 セブン-イレブン記念財団

「セブン-イレブン記念財団」は、1993年に（株）セブン-イレブン・ジャパンの創立20周年記念事業として設立された「セブン-イレブンみどりの基金」を前身としています。以後、加盟店と本部が一体となり、「環境」をテーマにした社会貢献活動に取り組み、2010年3月に現在の一般財団法人となりました。

http://www.7midori.org/

店頭での募金は、地域の環境保全活動の支援に役立てられています

全国のセブン-イレブン店頭に寄せられたお客様からの募金は、まず加盟店からセブン-イレブン・ジャパンに送られます。そして、セブン-イレブン・ジャパン本部からの寄付金と合わせて、当財団に送られます。寄付金は「環境」をテーマに活動している市民団体への支援や、自然環境の保護・保全活動、環境美化活動、広報活動、災害復元支援活動などに役立てられます。

当財団の助成制度は、お客様が募金を通して地域の環境活動を支援する、市民参加型の社会貢献活動です。

募金の流れ

募金額の推移

2009年度の活動報告

2009年度、セブン-イレブン記念財団が、お客様からの募金とセブン-イレブン・ジャパンからの寄付金をもとに行った、「環境」をテーマとした事業活動を紹介します。

環境NPO支援事業

滋賀県の安曇川流域・森と家づくりの会の活動

市民の活動支援が大きな柱です

環境活動に取り組む市民団体が新しい社会の担い手として活躍できるよう、市民が主体となっている地域の活動をさまざまな角度から支援しています。対象となる活動分野は、①自然環境の保護・保全 ②野生動植物種の保護・保全 ③体験型環境学習活動 ④環境への負荷を軽減する生活をテーマにした活動 ⑤緑化植花活動 ⑥地域清掃活動です。

2009年度は資金面を支援する公募助成（継続助成先も含め、251件に対し1億3,492万円の助成）や、地域の環境NPOを支援する中間支援組織への支援、環境ボランティアリーダーのスキルアップを目的とした海外研修などを行いました。

災害復元支援事業

2009年10月に実施した、社員ボランティアによる植樹活動

三宅島の緑化プロジェクトを支援しています

東京都の三宅島は、2000年の雄山（おやま）の大噴火により、全島民が島外に避難するという大きな被害を受けました。その植生の再生と島の復興を目的として、NPO団体への支援活動と、セブン&アイグループとしてのボランティア活動という2つの取り組みを行っています。

2009年度は、東京都内の高校や大学と連携して、三宅島の植樹活動をしているNPO法人園芸アグリセンターの「三宅島緑化プロジェクト」を支援しました。また年に2回、グループ社員による植樹ツアーを開催しています。2009年度は約200人が参加し、約3.3ヘクタールに7,200本の植樹を行いました。

自然環境保護・保全事業

観察路での昆虫採集

九重（くじゅう）ふるさと自然学校を運営しています

大分県九重（ここのえ）町で運営する「九重（くじゅう）ふるさと自然学校」は、「人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を自然から学ぶ」を理念に、地元の方々の指導・協力を得て「くじゅうの自然保護・保全」と「トキのすめる里作り」という活動をしています。また、多くの方に自然の大切さやすばらしさを学んでいただけるよう、一般の方が参加できるプログラムを提供しています。

2009年度は、地元の小中学生を対象とした野鳥観察や生き物観察などのプログラムのほか、「トキのすめる里作り」を目指した田んぼづくりと有機無農薬の稲づくりなどを行いました。

理事長の声

「基金」から「財団」へ移行したことにより、募金に協力いただいたお客様の信頼と期待に応える責任の重さを感じています。2010年2月には行政と連携する初の事業として、東京都と「東京の緑を守ろうプロジェクト」に関する協定を結びました。これにより、都内に残る樹林地の緑を保全する活動へ支援を開始しました。今後も活動の充実を図り、地域に根ざした社会貢献活動を展開していきます。

山本 憲司
一般財団法人
セブン-イレブン記念財団
理事長
セブン-イレブン豊洲店
オーナー